

歴史の交差点

武蔵野大特任教授 山内昌之



令和5年に放送されるNHK大河ドラマは、戦国時代を終わらせた3大政治家の1人、徳川家康が主人公の「どうする家康」に決まった。アイドルグループ「嵐」の松本潤さんが家康

にふんずるとは、まことに楽しみである。コロナ禍を経験した国民に勇気と未来への希望を与える演技を期待したい。他方、危機における指導者の在り方といえば、織田信長を思

い残虐さという欠点もある。豊臣秀吉もおの秀次一家の虐殺や朝鮮出兵など晩年は残酷な面が目立つ。信長や秀吉は戦国の英雄として目立つにせよ、平時の統治者としては欠けるところがあつた。日本人のような平和

愛好国民が戦国時代や信長を好きだというのは不思議である。コロナ危機の解決に信長タイプを期待する向きは、私権や自由の制限など非常時の手法を是認することなのだろうか。家康については、「天下統

家康の責任感とコロナ禍

「長い間続いた江戸幕府の基礎をつくる」「心が広く、穏やかな人柄」「賢い頭脳」とい一般的評価は、家康と江戸幕府の性格をうまく言い表している。天下統一と270年の平和確立の事業は、コロナ禍で生活

のルールや日常性が破壊された社会の再建にも匹敵するといえは現代人には分かりやすいか。しかし、信長や秀吉のように指導者が優れていても、その意志を体して働く部下がシステムとして機能しないと危機の解決導や官邸主導の時代が続いた結

(やまうち まさゆき)